（別紙4）　　平成　31　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3373401037		
法人名	社会福祉法人　鶯園		
事業所名	グループホーム美和		
所在地	岡山県真庭市樫東43－1		
自己評価作成日	令和 4 年 4 月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3373401037-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 4 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

山林・田園に囲まれた昔ながらの旧家で利用者様ご自身も住み慣れた、馴染み深い環境の中で生活をしています。「土いじり」を生活の中に取り入れ、安心して心穏やかに生き甲斐を感じられて、笑顔のある生活をして頂ける「介護」に努めています。地域の方々家族の方々との交流を深めながら、利用者様を支え合い居心地の良い施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ゆったりと自然と同化して歴史を物語っている施設である。古き時代の面影を残した和室があり、富士山、鶴、松を欄間のように彫った建具があり、昔の良さを醸し出し、利用者の心の支えとなっている。時には、小鳥のさえずりがのどかな自然とフィットしている。利用者も急がず、ゆったりとした生活に触れていて、施設も古き天然木の床が時の流れを持って味わいに磨きをかけ、職員も清潔さを追求している。若い職員も介護士の資格を取得し、介護の張り合いが増し、新たな風を運んで、職員に元気さを与えていた。そして、利用者に寄り添おうと思いすぎて、普段着の言葉ではなく、ある程度の敬語やトーン、声の大きさを考えていくことに気づき、昔していたことを新しいことに変化させながら『温故知新』の姿勢としてそのまま息づかそうとしている。利用者が生きがいを感じ、笑みが出るように、職員一人ひとりが見守りながら歴史に新たな一歩を踏み出す心構えを感じた。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様らしい生活を温かい介護でサポートに努める。	法人の理念である【地域に根ざした介護に努め、利用者の尊厳を守る】を目標として、新人教育と合わせて、家族からの思い合わせて話合っている。理念に向かう様に職員会議で「何がしたいのか」を話し合ってケアに活かしている。	理念や職員の個人目標をより広く、みんなに知って頂くために、大きくしたり、見えやすい場所に掲示してみてはいかがでしょうか？
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が行事がある度に声を掛けてくれる。体調や天候に左右されるが少人数でも参加をしている。施設行事には地域の方々に呼びかけを行い交流を図っている。	敬老会に参加をした後の外食を楽しんでいるくらい地域との関連性が高く、挨拶だけではなく、世間話まで話し合える地域の一員として生活していたが、参加の声はかかっていて、「今は大変な時期だよね」と身近に感じてくれている。	パソコンやメールなどを使うことで、地域との密着をより深めてはいかがでしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が施設外に散歩や、畑仕事をしたり、施設の行事に地域の方々に参加をして触れあい、理解をして頂くきっかけを作っているが昨年は出来ていない。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域代表者・市職員・見識者・施設職員との話し合いを行っている。その中での意見をケアに活かしている。	コロナの影響で健康を気遣い、この１年間は、高齢者支援課、医院長、職員、家族、利用者の参加者に会議録を郵送したり、電話で連絡したりして、要望を聞くように配慮している。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	真庭市内のグループホーム連絡会議において市職員と連絡を取り合っている。	運営推進会議のメンバーにもなっているので、何でも話し合える関係となり、管理者は窓口として気楽に相談できている。ちょっとしたことでも電話やFAXを頂き、安心できる関係が築けている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠をしない身体拘束をしないケアに取り組み、必要時は職員会議において話し合いを持っている。	施錠は一切せずに、身体拘束もしていない。職員会議の中で身体拘束について取り上げて、職員で意見を出し合っている。特にスピーチロックを取り上げて、ついつい使いやすい言葉を使わないように職員間で気遣っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に一度、必要時に職員会議において話し合いをもち、防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要であれば関係者と話し合い、活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面を見ながら口答でしている。改訂などの場合、文書を送付し来所時にも改めて説明をする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一度の運営推進会議の場で利用者や家族から意見を聞き、他利用者へ報告する。	家族からの思いとして「父はハーモニカを吹くのが好きなので能力を落とさないようにして下さい。」と頼まれ、職員は少しでも叶えてあげられるように真摯に受け止め、ハーモニカを奏でて頂いたら、利用者のみんながそれに合わせて歌い、生活にリズム感が生まれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で機会を設けている。	利用者と同様に職員も気軽に何でも語れる場があり、管理者も聞く耳を持って職員の意見を反映しようとしている。また、有給休暇も順番にとれるようにして、家庭と両立できるように取り計らっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の規約道理に遂行される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修に参加出来るような機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加を勧め、知識を広げていく様に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所決定時に本人の以前の様子や現在の様子を詳細に尋ねる事、家族の思いに寄り添う事、入所後は本人の思いを観察し馴染みの関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所決定時に家族の思いを傾聴し要望を尋ねている。毎月本人の様子を手紙にしたためたり、「美和だより」を送っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に情報と観察を行い・家族の思いを尋ねてその上でカンファレンスを行い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれ出来ることをしてもらう環境を作り、職員も一緒にすることを務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に毎月本人の様子を手紙にしたためたり、「美和だより」「日常生活の様子」を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に親しい方がおられる事を尋ねておき、面会があれば会って頂ける支援をする。	「今日は美容師さんが来るから」と伝えたら、ワクワクした気持ちで「今日はどんな髪型がいいかな」と想像しながら1日が始まり、オシャレになったことで、安堵と満足に浸り、落ち着ける新たな馴染みの関係が始まった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を個別に把握し、1人にならないように席を設けたり、職員対応や作業を一緒にするようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば支援をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話をしたり、その中で本人の思いを感じ取り希望や意向に沿うように努めるようにしている。	花見や誕生日会で楽しかったことの記憶が蘇り、みんなと一緒に飲み交わしたいという気持ちを叶えたら、みんなにお礼を言いながら、ノンアルコールのお酌をして回って、楽しいひと時を迎えることができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を尋ね生活の中に活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	他利用者と一緒に出来ること、個人で出来ること等把握し出来ることをしてもらう。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決め、よりよく観察を行い家族と利用者の橋渡しになり、現状に合った介護計画を作成するようにしている。	入居前に現在の状況を病院から確認し、家族から利用者の様子を聞き、家族の要望や思いを混じえてプランを作成している。入居してからの様子と照らし合わせて、見直しをしている。3ヶ月毎にモニタリングをして、6ヶ月後に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有をしている。カンファレンスは何か変化があればみなおしをおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の様子・状況に対応出来るようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での催し物には、出来るだけ参加をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かり付け医はご家族に委任している。施設の掛かり付け医を希望された場合は受診後手紙にて、報告をしている。	事業所の提携医への転院を案内し、2週間に1回診療を受けている。それ以外をかかりつけ医としている利用者の受診は家族が介助し、歯科を含め他科へは、必要に応じて職員が家族に提案し、受診を介助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週　訪看を受けている。日常生活での変化等の情報は紙面にて、報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所時　入院をする場合を考えて情報の共有を家族に同意を得ているので、介護添書や必要な事項を提供・状況の把握をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時　家族に重度化した時の対応を説明をしている。又家族の考えに沿うように支援をしている。	看取りは行っていない。入居時に、重度化とは、どういった状態か？といった事を説明した上で、医療が必要になった場合は医療機関への入院となる事を説明している。利用者の状態の見極めや重度化した時の家族への接遇を指導し合い、職員間で学び合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回　会議の時に対応の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回　会議の時に対応の訓練をしている。	火災訓練を年2回、そのうち1回は、消防職員立ち合いのもと実施。年2回、自然災害を想定して、職員全員で対策し、利用者も参加できる体制を整えている。備蓄は、水・汁物・味付きのごはんを3日分用意し、普段の食事にも出して、無駄のない運びとしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けのトーン・目線・呼び方等出来るだけ穏やかに対応を心がけている。	プライバシーの確保として、お風呂の脱衣室の扉を開けっぱなしにしない、ノックをして言葉を掛けてから入室する配慮をして、利用者に気配りをしている。親密になると疎かになりがちになるので、利用者の尊厳に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをするとき、献立の希望等　こちらが対応出来ることは、尋ねて希望に添う様に支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、本人の意思決定を支援する様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は本人の意思を尊重したり、身だしなみも整えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は利用者の希望により、献立は利用者に聞いて作ることもある。	利用者の健康を考え、あえて献立表は作らず、畑で採れたネギやニンジンを食事に加え、冷蔵庫と相談しながら、食べたいレパートリーに応えている。おやつ作りも、さつまいもは大学芋に、よもぎはよもぎ餅にして、利用者に旬を感じて頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量1500ccを目標に　食事量は個々に合わせて　咀嚼により形状も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。出来ない方は介助している。毎夜　消毒をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、個々のパターンのを把握し個別に声掛け、誘導をしている。状態に応じて使い分けをする。（布・紙・おしめ）	排泄パターンを把握していて季節に合わせて、あせもが出やすい方には、夏はできるだけ布パンツにして爽快感を与えられるように心掛けている。経済的にも優しくなるように気配りをしている。ポータブルトイレは夜間のみ、必要な方に設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取・繊維の多い食べ物・毎朝のヨーグルト・運動を試みている。個々の予防対策をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は勤務上出来ない為、隔日とし入浴時間を多く取り、ゆっくりと入ってもらう。	入浴を勧めると「今日は入りたくない」「風邪を引いているから」「家に帰ったら入る」などと、職員を困らせるが、時間や人を変えて勧めると「気持ちよかった」と長湯になることもしばしば。職員の個性的な誘導が活かされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせるようにしている。個人によっては昼夜逆転になりかねない方は、離床を優先している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日常生活の様子を常に報告し、指導を仰いでいる。処方は、副作用を確認し、内服後の状態を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に必要な支援（下肢筋力の低下を防ぐ）、気分転換にレクレーション、好きな事、出来る事を見つける事の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月／3回の外出日以外に希望があれば出かけたり、可能な限り支援をしている。家族の方との外出・外泊が出来るように支援をしている。	病院診療の時に、馴染みの場所や施設に合った場所などにちょっと足を延ばし、窓越しだが気分転換をできる配慮をしている。玄関先の門のところにベンチを置き、自然に溶け込み、おしゃべりをしながら童心に返って、昔話に花を添えていた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持をされることはしていませんが、買いたい物があれば職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば沿うようにしている。手紙は本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家なので、馴染み深いと思われる。危険な物は置かないようにしている。	利用者が居間に集い、新聞やテレビを観て過ごしていた。ハーモニカが得意な利用者がさりげなく手に取り、音色を響かせると、今していることを止めて一緒に歌を歌いだす。そんな心の通う家庭的な温かい大広間となっている。職員も安心して他の作業に取り組むくらい癒しの時間となっていた。古民家らしい歴史が佇む我が家となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの場所作りは、少し広めに取っている。決まった席について落ち着かれいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物・なじみの物を側に置くようにしている。	文才がある方の居室では、娘さんが自己出版された絵画集を眺めたり、鳥の絵が描かれた瓶アートを棚の上にさりげなく飾ったりしていた。アルバムを見て、自分も塗り絵を負けずと描き、娘の姿を瞼に浮かべる我が家のような居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の居室が分かるように名札をかけたり・共有場所にも名札を張っている。		